

1 キリスト教教理入門

- 1
1. 神学をすること
 2. 神の啓示
 3. 神の性質
 4. 神のみわざ
 5. 人間
 6. 罪

- 2
7. キリストの人格
 8. キリストのみわざ
 9. 聖霊
 10. 救い
 11. 教会
 12. 終末

2 第七部 キリスト論

- ◆ 23章 キリストの神性
- ◆ 24章 キリストの人性
- ◆ 25章 キリストの人格の統一性

3 第25章 キリストの人格の統一性

1. 問題の重要性と難しさ
2. 聖書における資料
3. 初期の誤謬
4. 問題解決の他の試み
5. 一人格二性の教理の基本的綱領

4 1. 問題の重要性と難しさ

1. 最も難解な神学的問題のひとつ
2. 矛盾する属性 - 同時にありうるのか？
3. 聖書の資料の乏しさ - 推論からの描写

5 2. 聖書における資料

1. 神のうちにある複数性の示唆
2. イエスの神性と人性に言及の聖句
3. 神性・人性を統一的主題として
4. イエスについての称号 - 神の子・人の子

6 3. 初期の誤謬

ネストリウス派

1. コンスタンチノーブルの総主教
2. 「セオトコスとしてのマリヤ」の問題
 1. 神は母をもちえない
 2. マリヤは神を生まなかった
 3. 神の器としての人間を生んだ
3. キリストの人格の分裂
4. 二性二人格 - エペソ会議(431)で異端として非難

7 3. 初期の誤謬

エウチュケス派

1. コンスタンチノーブルのある修道院長
2. キリストはただひとつの性質のみ所有
3. 受肉以前と以後にそれぞれひとつの性質
4. イエスの人性は神性の中に吸収 - ドケチズム (仮現説) 的
5. 神性と人性は第三の実体・雑種的なものに融合
6. エウチュケスの主張には混乱がみられる

8 4. 誤った問題解決の他の試み

養子説: アドプシヨニズム

1. 二性一人格の問題の解決策: 養子説
 1. ナザレのイエスは単なる人間
 2. ヨルダン川の洗礼 - 神の子として養子とされた - 人間が神となるケース
2. 聖書と整合せず
 1. キリストの先存在
 2. キリストの誕生物語
 3. 処女降誕

9 4. 誤った問題解決の他の試み

ケノーシス説

1. イエスはご自身をむなしくされた
 1. ケノー(ギ): 空しくする
 2. 全能性、遍在性を放棄されたのか?
 3. 神性と人性の交換で説明
 4. 同時に神であり人であることは不可能、連続的にはありうる

10 4. 誤った問題解決の他の試み

勢力的受肉の教理

1. ダイナミックな受肉の教理
 1. 神・人における神の存在は、実体的統合の形式ではない
 2. 人間イエスのうちにある神の力の生きた臨在である
 3. キリストと私たちの相違: 質的なものではなく、量的なもの
2. 聖書の記述
 1. コロサイ 2:9
 2. ヨハネ 1:18; 8:58
 3. ヨハネ 3:16

11 5. 一人格二性の教理の

基本的綱領: 序

1. 古典的教理の陳述: カルケドン信条 (451)
 1. 四つの否定語: 混同せず、変化せず、分割せず、分離せず
 2. ひとつの人格 (プロソーボン)、ひとつの本質 (ヒポスタシス)

12 5. 一人格二性の教理の

基本的綱領: 序

1. 古典的教理の陳述: カルケドン信条 (451)
 1. 四つの否定語: 混同せず、変化せず、分割せず、分離せず
 2. ひとつの人格 (プロソーボン)、ひとつの本質 (ヒポスタシス)

2. 人格の統一性・二性の統合と分離についての陳述
 1. 二性の関係はどうか？
 2. カルケドンの結論:本質的に否定的
 3. それは解答ではない、それ問いである
 4. 私たちはさらに、受肉の教理の本質的原則は？

13 5. 一人格二性の教理の
基本的綱領

1. 基本的綱領
 1. 受肉は、神性の破棄ではなく、人性の入手である。
 2. 二性の統合は、それらが別個に機能することを意味しない。
 3. 神性と人性は、イエスにおいて最も明確に知られる
 4. 受肉の主導権は、上からであり下からではない。
 5. イエスはきわめて複雑な人間と考えることは助けとなる。
2. 聖書の教えへの全き忠誠は、注意深く曲解(図示)を避けさせるものとなる